

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	一般財団法人北上市文化創造	
施 設 名	北上市文化交流センターさくらホール	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	3,571	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	347 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,224 (千円)

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いわての演奏家連携育成事業「いわての演奏家とつくる音楽会」プログラムづくりとアウトリーチ	R4年7/13～ R5年3/14	研修講師及び出演：野尻小矢佳、新崎誠実、加藤直明 地元出演：牧野詩織、木戸口夏海、黒澤里美	目標値	270
		北上市内、前沢市内、釜石市内		実績値	309

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	子どもの舞台芸術体験事業キッズアート	講座：R4年5/31～ 2/25 ダンス発表会 3/5 合唱発表会	講師：山田うん(Co. 山田うん主宰) 川合ロン(ダンサー)、菅家奈津子(メゾソプラノ)、御園生瞳(ピアノ)	目標値	560
		さくらホール 小ホール		実績値	327
2	みんなART おたがいさまライブ事業	R4年6/18	「んまつーポス『いっすんぼうし』」 作・振付・演出：んまつーポス+高橋 るみ子(宮崎大学客員教授)	目標値	140
		さくらホール 小ホール		実績値	94
3	アウトリーチ事業	R4年6/17～12/2	普及啓発事業1, 2, 5のアーティスト5組11名が出演。	目標値	351
		小学校、中学校特別支援学級、高校、企業、 多機能事務所		実績値	363
4	盆踊り活性化事業「さくらホール盆ジュール大会」	R4年8/11	普及啓発事業1, 2, 5のアーティスト5組11名が出演。	目標値	1,680
		さくらホール 野外特設開業		実績値	1,870
5	クラシック音楽普及のためのコンサート事業：きたかみサロン音楽会シリーズ	R4年9/23、11/19、 12/3	Vol.1 出演者：笹沼樹、上田晴子 Vol.2 出演者：荒川洋、本田聖嗣 vol.3 出演者：大石将紀、新居由佳梨	目標値	260
		さくらホール 小ホール		実績値	467
6	北上市青少年鑑賞事業	R4年9/7	出演：ブラックボトムブラスバンド ※新型コロナウイルス感染症の影響で学校閉鎖、クラス閉鎖のため2校が未参加	目標値	1,700
		さくらホール 大ホール		実績値	1,537
7	アーティスト・イン・レジデンスによる作品創造事業	R4年7/2～3 R5年1/3～1/7	出演者：児童劇団「テアトロ・イン プロヴィーゾ」(イタリア) 牧野詩織(フルート)	目標値	216
		北上市内 さくらホール小ホール		実績値	145

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>■社会的役割への位置づけ</p> <p>さくらホールは「文化芸術を通じた心豊かな地域社会の形成」を目的に掲げ運営されている。令和3年4月1日、設置者である北上市は心豊かな市民生活と魅力ある活力に満ちた地域社会の実現を目指し、岩手県内初となる「北上市文化芸術基本条例」を施行した。その基本的施策を総合的かつ計画的に推進するため「北上市文化芸術推進基本計画」を令和4年6月に策定した。この中にさくらホールの役割も具体的記載されており、設置者である北上市にとって文化芸術施設の中心であることが伺える。</p> <p>■地域の特性</p> <p>国が超少子高齢化と人口減少に進みながらも、北上市は、令和4年は大手半導体メーカーの工場立地が進み、220名の転入超過市となった。岩手県内33市町村中、北上市220人、紫波町83人、田野畑村12人の3市町村が転入超過であった。さらに北上市は公立保育所6カ所と療育センター（児童発達支援施設）に、保護者とアプリでやり取りできるシステムを導入した。人口もわずかであるが増やしつつ、「保育園DX（デジタルトランスフォーメーション）」にも取り組み、転入者のケアもできる体制を整えている。</p> <p>■事業の組立や当初の予定通りに事業が進んだか</p> <p>VISION 01「うるおい」、VISION 02「ふれあい」、VISION 03「にぎわい」、VISION04「あんてい」の4つの柱で計画に沿った事業展開を行っている。コロナ対策を十分に行いながら令和4年度は開催できたが、普及啓発事業「子どもの舞台芸術体験事業キッズアート」に関しては、講師や担当職員のコロナ感染により一部日程変更が生じたが、予定通りのプログラムをこなすことができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>■文化的意義</p> <p>北上市が「北上市文化芸術基本条例」を制定し、さらに計画的に推進のために「北上市文化芸術推進基本計画」を策定したことにより、北上市の文化芸術への取り組み姿勢もより明確になったことで、北上市と財団が協議し理解度を深めることで、地域における文化・芸術水準をあげていくことに繋がっていくことと考える。</p> <p>■社会的意義</p> <p>北上市は、さくらホールの事業に協力的であり、理解もいただいている。さらに令和4年度は後述で触れるが、「普及啓発事業」の中のアウトリーチ事業を市内民間企業で開催することができた。学校関係にとどまらず、市内企業で開催できたことは、さくらホールの事業活動が理解浸透されてきていることに他ならない。この助成により、アウトリーチ事業が、学校から企業へと広がりを見せることを可能にしている。</p> <p>■経済的意義</p> <p>北上市は東北新幹線の停車駅であるため、比較的交通の便には恵まれている。ホールまでの移動は、職員の送迎のほかにも、市内タクシー業者と提携し、送迎をスムーズに行っているが、新型コロナの影響で廃業者が多く出たので、今後も優先的に使うようにしている。宿泊先のホテルは、やはり新型コロナの影響でブライダル、レストラン部門を廃止し、業態替えに近い宿泊施設になったが、この事業の助成を通じ、ホテルへアウトリーチ講師や出演者を宿泊させることで、地域経済の貢献もできている。飲食関係も、桜の開花時期を過ぎるとインパウンドが期待できない地域であるため、地場の店舗から購入するように心がけている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■人材養成事業の目標

「持続可能な創造活動確保のため、地域に居住する演奏家の育成と地域コーディネーターの育成を実施する」という大きな目標を達成するために、3つの取り組みを行った。①オーディションで選出した登録アーティストを1名養成する。結果；北上市内で4回、近隣地域で1回、4日間で5回のアウトリーチを実施。アドバイザーを招聘し、ランスルー及び本番、振り返り会の指導でプログラムをブラッシュアップ。②地域コーディネーター4名の養成。結果；さくらホールから2名、他館から2名の4名で、北上市内アウトリーチ6回、近隣地域5回、他市のロビーコンサート1回に参加し、プログラム検討、本番、振り返り会を通じ経験を積んだ。③事業連携館を2館以上。結果；4館連携を達成した。以上を踏まえ、経験値が上がり、演奏家の育成、コーディネーター育成の向上に繋がった。

■普及啓発事業の目標

【市民誰もが文化芸術に親しむ機会を提供する】

①子どもの舞台芸術キッズアート⇒園児から小学生とそのお母さん、②みんなART おたがいさまライブ事業⇒未就学児から全世代、③アウトリーチ事業⇒園児・小学生・中学生・10代から50代、④盆踊り活性化事業⇒全世代、⑤クラシック音楽普及のためのコンサート事業⇒未就学児入場可も一部設け、全世代、⑥北上市青少年鑑賞事業⇒市内小学3・4年生、⑦アーティスト・イン・レジデンスによる作品創造事業⇒未就学児から全世代、7事業を行うことで世代別、幅広いラインナップを提供できた。

【文化芸術の取り組みを通じて、地域の関係機関（教育、子育て、福祉、医療、地域等）との連携・協力を積極的に進める。】①アウトリーチ事業⇒市内幼稚園、小学校、高校、多機能事務所、支援学級、②盆踊り活性化事業⇒周辺地区民の協力、高校生ボランティア、ブラスバンド関係者、民舞踊団体、芸能団体、③アーティスト・イン・レジデンスによる作品創造事業⇒他地区の館との連携、民間施設、博物館、遺跡、スポーツ少年団等、事業推進に当たり、多岐にわたる関係を構築し、協力して開催できた。

【創造性が豊かなオリジナル公演の上演や地域ニーズに応じたプログラム製作を行う。】①子どもの舞台芸術キッズアート⇒子どもの個性を尊重した体験プログラムと発表会、講師による創造活動の提供、②盆踊り活性化事業⇒オリジナルダンス、盆踊りと吹奏楽のコラボ、地域住民の要望、③アーティスト・イン・レジデンスによる作品創造事業⇒北上市や岩手県の要素が詰まったオリジナル舞台公演、さくらホール独自の事業となっている。

【さくらホール足を運びにくい、鑑賞機会を持ちにくい文化芸術を届けることで受益者を増やす】

①みんなART おたがいさまライブ事業⇒ノンステップで入場可能な鑑賞舞台の設置、未就学児入場可能、未就学児用の椅子設置、靴を脱いで鑑賞エリアの設置、②アウトリーチ事業⇒特別支援学級8カ所の訪問、市内の民間企業法人2カ所で就業時間内にダンスアウトリーチ開催、③アーティスト・イン・レジデンスによる作品創造事業⇒0歳以上入場可能にしたことで親子連れ、上演中の泣き声も気にせず鑑賞可能、博物館でのワークショップ開催、舞台公演に年齢制限があり、鑑賞の機会が得られなかった家族の鑑賞機会を提供できた。

【障がいのある方、子育て世代、高齢者が舞台芸術を楽しむための支援を行う。】

①子どもの舞台芸術キッズアート⇒特別支援学級の子どもも参加、②みんなART おたがいさまライブ事業⇒未就学児、車椅子の方でも支障なく鑑賞可能、③アウトリーチ事業⇒多機能事務所1カ所、特別支援学級8カ所への訪問、④北上市青少年鑑賞事業⇒社会福祉施設1カ所、特別支援学校1校を無料招待、により支援を行った。

上記記載事項を踏まえ、さくらホールは鑑賞体験事業もさることながら、普及啓発事業のプログラム数とその内容に力を入れていると伺える。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■令和4年度における新型コロナウイルス感染症対策としての開催可否判断基準

令和3年度のような厳しい基準は、更なる感染拡大と爆発的な数値になったが、ワクチン接種が進んだことで、数値基準判断は撤廃し、引き続き出演者にはPCR検査をお願いすることで、事業を開催することとした。

■人材養成事業に関する事業期間とその計画について

「いわての演奏家連携育成事業」令和3年に計画していた、ソプラノ部門の事業が新型コロナですべて中止とし、令和4年に振り替えて開催できた。2022年6月から2023年2月とし、アウトリーチを5回実施し、参加者は117人であった。これ以外のプログラムとして、2022年5月から9月の期間に、4館連携のアウトリーチ・ラボを実施し、アウトリーチ4回、ロビーコンサート1回、参加者数186人であった。今年度は計画通りに進めることができた。

■普及啓発事業に関する事業期間とその計画について

「子どもの舞台芸術体験事業キッズアート」の事業期間が最も長く、2022年4月から2023年3月までの1年間とし、年度末の発表会までを事業期間としている。「アウトリーチ事業」こちらも年間を通じて、サロン音楽会、キッズアート、みんなーとおたがいさまライブ事業のそれぞれの出演者が、令和4年度は6月から12月の合計9回のアウトリーチプログラムを開催できている。「アーティスト・イン・レジデンスによる作品創造事業」に関しては、フィールドワークを7月に2日間5施設で行い、年明けの1月早々からワークショップ、数日間のリハーサル、本公演開催へと繋げた。他の事業に関しては、それぞれが本番日は1日ずつとしている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■人材養成事業に関する事業費が適切で、計画通りに進んだか

「いわての演奏家とつくる音楽会」の1事業であり、予算額833,000円に対し、決算額が721,501円、変更額は▲111,499円の変更率-13.4%で事業を終えることができ、計画通りに進んだといえる。

■普及啓発事業に関する事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか

①子どもの舞台芸術体験事業キッズアート、②みんなART おたがいさまライブ事業、③アウトリーチ事業、④盆踊り活性化事業「さくらホール盆ジュエル大会」、⑤クラシック音楽普及のためのコンサート事業；北上サロン音楽会シリーズ、⑥北上市青少年鑑賞事業、⑦アーティスト・イン・レジデンスによる作品創造事業の合計7事業合計で、予算額10,428,000円に対し、決算額が8,989,568円、変更額は▲1,438,432円の変更率-13.8%で終えることができたので、こちらも当初の計画通り進んだといえる。

一部、③アウトリーチ事業で訪問予定先から感染防止対策の判断により、キッズアート合唱講師によるアウトリーチが中止となり計画に誤差が生じた。毎年のことではあるが、今後も変更率の差異が大きくなるように努める。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

■人材養成事業

「いわての演奏家連携育成事業」アウトリーチ・ラボについて触れておきたい。地域の登録演奏家2名と地域創造おんかつアーティスト3名が共演し、プログラムづくりのアドバイスやアウトリーチを実施することで、演奏家と地域コーディネーターを育成していく試み。令和4年度は、釜石市でこの5名が共演しロビーコンサートを実施した。大きな特徴は、岩手県内の4つの施設が連携しているということだ。4館はそれぞれ、指定管理（さくらホール；北上市）、直営（大船渡市民会館；大船渡市）、株式会社の指定管理（釜石市民ホール；釜石市）、商工会による指定管理（前沢ふれあいセンター；奥州市）は、予算も組織体制もすべて異なる団体の連携であるが、無理なく連携できるよう活動に応じた経費案分と必要に応じ相談しながら進めていく体制を整えたことで、限られた予算の中でも事業を進めていくやり方を学ぶきっかけにもなった。これにより、館の評価だけでなく、行政からも費用が抑えられることで、連携することの意義とアウトリーチ事業への理解が深まった。この事業活動の意義を理解し、令和5年度はもう1館増えて、5館連携の予定である。単に費用面だけでの連携ではなく、企画制作や専門知識、経験の共有をしていくことで、連携館のレベルアップにもつながり、それぞれの館が地域における文化芸術の拠点の役割を果たせるようになっていくと考える。

■普及啓発事業（1事業抜粋）

「みんな ART おたがいさまライブ事業」①未就学児や障がいのある方などを含め、だれもが一緒に舞台芸術を楽しむ人を増やす、②様々な「違い」を認め合い、尊重し合う人々の輪を作り出すことを目的にしている。2019年から4回目の事業であるが、今年是小ホールでの舞台公演で、んまつーポスによる「いっすんぼうし」を上演し、その前日に、さくらホールで初めてとなる、市内民間企業2企業で、出演者である「んまつーポス」によるダンスワークショップを訪問して開催した。午前1企業28名、午後1企業27名が参加し、数チームに分け、年齢、部署、社歴、人種（午前参加企業）を超えて、創作ダンスの振付をチーム毎に考え、発表まで行った。さくらホールの日常の文化芸術活動に理解があり、今回の訪問につながった。企業側の方も新鮮に感じていただき、社員全員が参加する企業の経営計画会議に、その際に制作された創作ダンスビデオを上映するなど、さくらホールとしても市内民間企業へのアウトリーチ展開へ繋がる結果となった。今後も民間企業へのアウトリーチを広げていきたい。

当日の公演は、小ホールでの開催であり、平土間形式で誰もが舞台を楽しめる工夫がされている。未就学児用の靴脱ぎエリア、ちびっこ用の椅子、未就学児も抱っこしてみられる舞台づくりで、のびのびと鑑賞できるようにしている。まさに、目の前で繰り広げられる、んまつーポスの動きの激しい舞台は、子どもたちが飽きないように、舞台に参加させるような演出も盛り込まれており、子どもたちは大はしゃぎだった。

まさに未就学児から70代までの幅広い世代が公演を鑑賞した。まさに公演のテーマである、誰もが一緒に舞台芸術を楽しむ機会、舞台の内容も「人と違っていいじゃない」という内容になっており、みんな ART おたがいさまライブ事業の2つの目的に沿う形で事業を終えることができた。うれしい悲鳴であり残念だった点は、この事業の理解が進み、未就学児入場可能な舞台であったため、予想以上に鑑賞者が増え、早々に売り切れてしまい、当日券があると思入場できなかったお客様、ワークショップに参加して興味を持ち、当日鑑賞しようと思ったお客様が多数いたことであった。さくらホールが提案する事業の理解度が深まり、誰もが見られる舞台を提供できた優れた事業であったといえる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

■人材養成事業

「いわての演奏家連携育成」アウトリーチ・ラボのプログラムの一環で、中学校の吹奏楽部を訪問した際のエピソード。顧問は声楽が専門で管楽器の奏法を知らずに指導をしており、地域創造おんかつアーティストが指導することで、顧問自身が今までの誤った指導を理解し、修正できた。また別の学校では、トランペットが吹けなくて悩んでいた生徒の技術面での悩みが改善したということもあった。吹奏楽部でも俗に言う、精神論で鍛えられていた生徒が多かったこと、基礎を知らずに3年間過ごしてしまうなどの気づきがあった。地方の吹奏楽部は、顧問はいても専門知識がある指導者は限られており、子供たちへの指導が行き届いていない現状もまた事実である。この事業もまた貴重な機会を生徒たちに与えていると感じた。他館連携に関しても、アウトリーチは必要なのは理解できるが、コストがあっても収入が無いというのが一般的な自治体の考えであり、また、それを提供するノウハウもないといったところが多く施設ではないだろうか。少なくともこの連携館においては、館と行政にも理解され高い評価を受けている。この方式を取り入れ理解が進んでいくことで、連携館が増えるだけでなく、訪問先が増えていくことで、地道な吹奏楽部などのクリニック等の指導も可能にし、地域の文化芸術の発展につながると考えている。

■普及啓発事業（1事業抜粋）

「盆踊り活性化事業」さくらホール盆ジュール大会は2013年からスタートし10年目を迎えた事業である。

①地域との協働事業として劇場が中心となって開催する、②地域住民が積極的に地域に係り世代間交流を深めるきっかけとする、を目的としている。昔ながらの盆踊りも少子化が進み、盆踊り実行委員会の高齢化に加え、さくらホールが建設されたエリアが新興住宅地になったことも重なり、古くからの住民以上に地域とのかかわりを持たない単身者、新婚世代が爆発的に流入したエリアでもあり、地域コミュニティは薄れていった。10年目を迎えた現在、運営面の特徴としては、地域の住民協力によって運営されてきたが、今年度からは実行委員会を立ち上げ、より主体的に各種様々な部門にボランティアが参加するようになり、高校生ボランティアも参加し、世代を超えてコミュニティが形成されるようになってきている。これとは別に、実際の盆踊りの状況は、全体とオリジナル盆ダンス振付・演出・講師をコンドルズにお願いし、地元で伝わる古くからの舞踊を地元の舞踊団体が講師となって、初めて参加する方々も踊れるように配慮し、伝統芸能伝承の場にもなっている。踊りに加え、音楽部門をブラックボトムブラスバンドが講師として、編曲・演奏・指揮者となり、地元演奏愛好家が演奏に華を添えている。今回はコロナ禍ということもあり、中学生ブラスバンドは不参加であったが、当日の楽器の音合わせからリハーサルを行い、この盆踊りで徐々に楽器を吹くきっかけにもなっている。これ以外にも、地元の太鼓団体の発表の場として、さらには、フードコーナーも加えることで、この事業の充実を図っている。この事業にかかわる人員、来場者も着実に増え、コロナ以前は約1,400名ほどであったが、令和4年度は約1,900名の過去最高を記録している。単なる地域の盆踊りから、さくらホールが全面的にバックアップする「盆踊り」という伝統文化を、踊りと音楽と伝統芸能が一体となった事業となり、新興住宅地であった場所が、さくらホールを中心として人々が集まり、地域の文化芸術の発展につながっていると考える。

普及啓発事業に申請した7件の事業を通じて、未就学児から高齢者、地域内交流、他地域交流、異なる学校交流、さくらホールから外への交流を行っている。今年開館20年を迎え、さくらホールの活動が、岩手県内、北上市内の理解も進み、今後も文化芸術の発展、育成に努めていきたい。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

■人材養成事業

いわての演奏家連携育成事業「いわての演奏家とつくる音楽会」プログラムづくりとアウトリーチ
この事業は2014年から開始し、2014年に第1期登録アーティスト；ピアノ、メゾソプラノ、2016年に第2期登録アーティスト；フルート、打楽器、2019年に第3期登録アーティスト；ソプラノ、クラリネットのそれぞれが、一過性の登録された演奏家というものではなく、それぞれの音楽活動を続けていることはもちろんであるが、2022年も2つのプログラムに分かれ、さくらホールとしても演奏家の育成事業として、アウトリーチプログラムづくりに対する助言、アウトリーチ先の確保、アウトリーチ・ラボを開催した。連携館が増えたことで、訪問先でのロビーコンサートが実施できた。まだ連携先のアウトリーチ数は少なく、今後の課題だと感じる。岩手県は広く、移動距離も長くなるため、移動に関する安全確保、訪問先の選定、訪問時間帯、宿泊が伴うものなのか等の判断も加わるため、より綿密なプランが必要になると思われる。

■普及啓発事業（特記すべき1事業）

「アウトリーチ事業」2006年度から18年間継続しているクラシック音楽のアウトリーチはこれまでに、177回実施し、約5,100人を訪問している。ダンスアウトリーチは過去に10回ほど開催し、令和4年度は北上市内民間企業2か所、小学校で5回それぞれ異なるダンスワークショップを開催できた。民間企業へのダンスワークショップを通じて新たな訪問先開拓と、ダンスアウトリーチを活用した職場内コミュニケーション提供の場へと繋げることができた。参加者アンケートも好評であり、会社の代表者からもお褒めの言葉を頂戴した。アンケートの1例；「通常の仕事上でも部下へ指示がうまく伝わらないことが度々あります。あの短時間（90分）で指示したことを実行させる事ができることが、凄いと感じ、仕事にも取り入れられたらと思っております」というような回答であった。市内民間企業のアウトリーチプログラムへの参加依頼は、就業時間内であることからハードルが高いと感じつつも、企業側へもメリットがあることを今回の事例を説明しながら、今後も継続したいと考える。いかに参加企業を増やしていくかが課題である。北上市内の民間法人企業でもさくらホールの活動への理解が進むとともに、文化芸術のすそ野をこのアプローチでも広げていきたい。クラシック関連のアウトリーチ開催は、継続実施してきたこともあり、市内の学校の先生方に事業内容、それに触れた生徒たちや児童の様子が好評であることから、アウトリーチ先の確保にも時間がかかなくなってきた。単なるアウトリーチ事業だけでなく、訪問先でも公演チラシを配り、興味をもって持ってもらい公演鑑賞へとつなげている。学校側も音楽授業では伝えられない生演奏を聴かせることができ、貴重な機会を提供できている。毎回同じ訪問先にならないように、学校、特別支援学級、老人福祉施設、障がい者就労支援事業所、医療機関や企業の提供先も整えていく必要がある。特に新型コロナウイルスの影響で、老人福祉センター、医療機関等はまだまだ訪問しづらい環境にあるので、調整をしながら再開していきたい。最後にこの事業推進に当たり、さくらホールの強みでもある、舞台職員の同行が挙げられる。ワークショップ先への提供する事業内容にも異なるが、ホール施設の音響機材等の設置から機器トラブル対応、音響効果による向上など、この事業に同じ立場で立ち会うことを可能にしている。事業を作り上げていく過程や訪問先の情報共有、当日の段取りから設置、確認、撤収が財団職員として参加できることは大きな強みになっている。音響が必要とされる体育館や今回ダンスワークショップで使用したキャンプ場、同じく企業内でもフレキシブルに対応することができている。